

校長室だより



平成30年度 No.8 2019.1.1

印西市立船穂小学校長 岸 祐尚



未来は見据えるためにある

新年あけましておめでとうございます。平成31年（？元年）が幕明け
 しました。子どもたちは、充実した冬休みを過していることと思います。
 昨年をふり返ると、船穂小の子どもたちの活躍が随所で光、ていまし
 た。また、その活躍を支えてくださる保護者の方々、地域の方々、全国でこの
 学校に注目してくださる方々、多くの方々の温かいご支援も頂き、子ども
 たちの成長につながっていききました。
 今、新しい年を迎えようとする。それは「子どもたちは22世紀を生きる
 人材である」ということとす。あと82年経つと22世紀。おそらく、多
 くの子どもたちはその世紀にも生きてしょう。ならば、現在の学校も、次
 の世紀を少し視野に入れ、教育活動を推進していかななくてはならないの
 です。「校長先生、そんな先のことを言うとは鬼が笑いますよ。」と言わ
 れそうです。そういう時は「鬼さんどうぞお笑いください。備えあれば憂いなし
 ですよ。」とでも言っておこうと思います。

未来は見据えるためにある。
 私は本気でこう思っています。教育において未来を見据える時にダメな
 のが、教育が「守りの構え」に入ることです。この校長室だよりNo.5の「鎖
 国したら、もうおしまい」で、『例年通り』などといった殻に閉じこまら
 ず、と申し上げていることが、そこにつながります。「前例ばかりを踏
 襲して、新しいものを開発しないのは、いけない」ということです。

享保の改革で有名な8代将軍徳川吉宗。彼は、様々な改革をしたと評判
 の幕府の将軍（？）です。しかし、「新しいものを作ったり、工夫をし
 たりしてはいけません」という「新規製造物禁止令」を出した人でもあり
 ます。新しい製造物を禁止したことで、家康以来ずっと発展してきた経済
 は、その後100年以上も停滞することになりました。米の生産量や人口
 も横ばいモードに入りました。当時の社会を支えるために必要だったのか
 も知りませんが、新しいものを生み出さないという「構え」が、世の中の
 停滞につながったのです。

人類の歴史を考えてみれば、新しいものの開発や物事の工夫改善は進歩
 の源です。それを止めたら、発展しないことは明白です。学校にもこの原
 理はあてはまります。「前例ばかりの踏襲」は効率的な面もありますが、
 発展につながらないという悪さもあるのです。

変化が激しい今の時代。その中にあり、22世紀に生きる人を育てる学
 校は、この変化に対応していける「構え」である必要があります。「守り
 の構え」でなく、「攻めの構え」で取り組んでいくことが重要なのです。
 新しいものを生み出す、様々な工夫を凝らす。これこそ、学校にとって大
 切な「構え」といえるでしょう。

「攻めの構え」は「未来を見据える構え」です。船穂小学校は、この「構
 え」の下、本年に臨みます。未来は見据えるためにあるからです。

どうぞ、よろしくお願ひします。

平成31年元旦 岸 祐尚

